

欽明天皇 檜隈坂合陵墳丘護岸その他整備工事箇所の立会調査

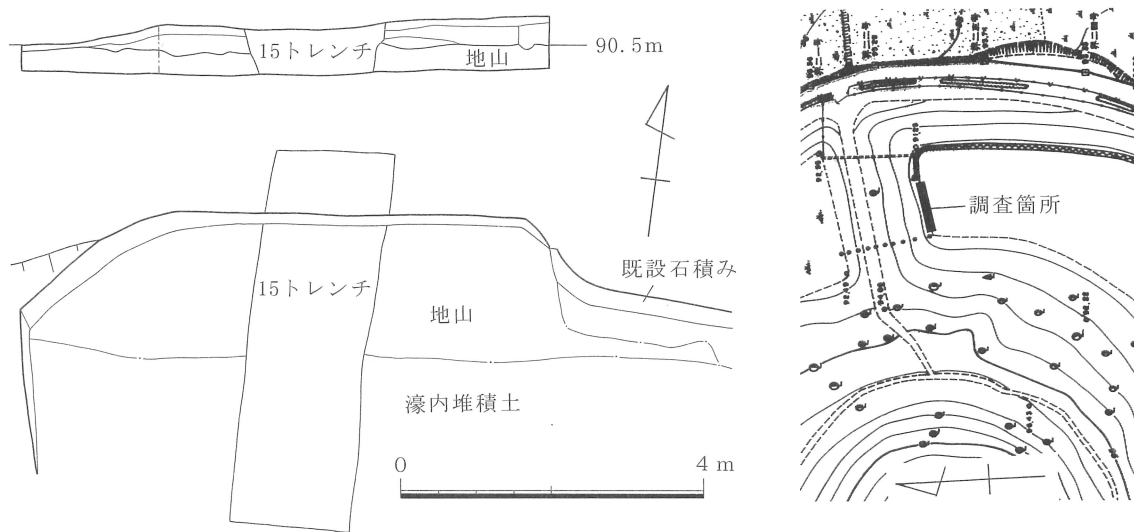
本陵では、一昨年度事前調査を行い(本誌50号)、昨年度整備工事が実施された。整備工事の中で掘削を伴う箇所は、東渡土堤の裾部と堆積土除去のための周濠の一部であり、掘削を行う平成11年1月12日に監区職員、2月8～10日に本部職員立会のもとに調査を行った。

周濠の堆積土除去に関しては、近年の周辺からの流入土及びヘドロの一部を除去したのみで、遺構・遺物は検出されなかった。東渡土堤の裾部も、長さ7m、幅0.8m、深さ0.7mの範囲で掘削を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった(第33図)。

東渡土堤については事前調査の際、第15トレンチを設定し調査を行っているが、土層に関しては新たな所見を得たので、ここで触れておきたい。後円部に設定したトレンチのすべてから地山が検出されたことは、本誌50号で述べたところであるが、事前調査当時、降雨・湧水の影響で土層の認定に苦慮し、第15トレンチでは地山は確認できないと判断していた。しかし、今回適度に乾燥した好条件のもとで検討した結果、近接する14トレンチでの地山検出レベルとも近似する、標高90.5m付近で地山が検出された。渡土堤造成以前、後円部周辺の濠内がほぼ同一レベルで削平されていたことを示すものと考えられる。外堤上面と現状の地山検出面の比高差は約4mであるが、おそらく地山面も外堤斜面に沿う形で立ち上がるものと考えられる。

以上の結果を受けて、工事は予定通り施工した。

(清喜裕二)



第33図 檜隈坂合陵調査箇所の平面図・断面図(1/100)および位置図(1/1000)